

職員による自己評価

A 「業務改善」について

アンケート等により把握した保護者の意向等は、職員同士で共有し、療育体制の変更も行っている。
各職員が定期的に業務の目標や達成への取り組みを決め、振り返りを行っている。
多職種からも研修を受ける機会が設けられている。

B 「適切な支援の提供」について

それぞれのお子さんに合わせた課題設定をして、それに沿ってプログラム等を行っている。
日々、グループ記録で動線を把握し、記録をもとに振り返りを行っている。

C 「関係機関との連携」について

保育所や幼稚園を訪問し情報共有している。

D 「保護者への説明責任等」について

保護者との日々の会話や連絡ノートの活用、必要に応じて面談を行い、意思疎通や情報伝達を図っている。

E 「非常時等の対応」について

地震や不審者など様々な状況を想定した訓練を行っているが、もっと具体的な訓練も必要。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

できているとの評価は100%。
昨年度同様高い評価となっている。
活動プログラムについて、工夫がたくさんされている。

B 「保護者への説明等」について

できているとの評価は98%。
帰宅時、別のお子さんが使用しているものと入れ違いがあった。

C 「非常時の対応」について

できているとの評価は97%。
昨年度低かった避難訓練についての評価項目でも、高い評価となり改善された。

D 「満足度」について

満足との評価は94%。
行きたくてしょうがないようです。

事業所内での分析

- 全体的に個別のコメントは少なかったものの、各項目とも前年度に比べて高い評価となった。特に「適切な支援の提供」については、お子さんの状況に合わせた適切な支援の提供と保護者への丁寧な説明が高評価につながっている。
- 好評価を受ける一方で、職員の体制面は非常に厳しい状況にあり、確認不足によるミスも見受けられるため、人員の確保と安定化を図る必要がある。
- 医療的ケアが必要なお子さんが多く在籍している中で、新たなフェーズに入った感染症対策下においてより工夫した対応が求められており、併せて職員の知識の向上も必要となってきている。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 障害がある子どもが自分を表出し、自分らしく生きられるよう支援している。
子どもが主体的に活動できるような「できる」「わかる」環境を設定し、子どもが自分の思いを表出して、自分で「できる」達成感を感じ、人と関わったり助けを求めたりする関係ができるように支援している。
- 保護者が安心して地域で生活していけるように支援している。
個人面談を実施するとともに、親子通園時には療育での子どもの様子を見てもらって説明し、保護者が家庭での支援に活かせるようにしている。連絡帳や日々の会話で保護者の思いを聞き取り、就学などの個別の相談にのり、就学後の相談にも応じている。様々なテーマで保護者教室や療育講座を実施して必要な情報を提供し、保護者が見通しをもってその後のライフステージを乗り越えて行けるよう支援している。
- 他職種間でチームアプローチし、それぞれの専門性を療育に生かしている。
センターでは、各課に専門職を配置し、多職種で連携して子どもの支援にあたっている。

事業所の改善点

- 多様化するニーズへの対応や保護者の不安解消、個々の利用児にあった支援を実施するために職員のスキルアップと体制整備を行い、新しい療育体制の構築に引き続き取り組んでいく。
- 重度肢体不自由児、医療ケア児が多い状況に合わせて、新たなフェーズに入った感染症対策下において、安心・安全な療育を適切な頻度で行う工夫が必要であり、園の取り組みについても、利用者に積極的に発信していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度は、昨年度からの新型コロナ対応を活かしつつ、より工夫した行事の実施やプログラム対応を行ってきました。また、保護者の皆さまにも、様々な場面でご理解ご協力いただき感謝いたします。今回、このアンケートを通じて、多くの課題やご意見を確認することができました。

今後も「子どもの療育」「保護者支援」の二本柱を大切に、利用者本位のサービス提供に向けて、職員一同精一杯取り組んでいきます。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

職員による自己評価

A 「業務改善」について

把握した保護者の意向等は、職員同士で共有し、療育体制の変更も行っている。各職員が定期的に業務の目標や達成への取り組みを決め、振り返りを行っている。多職種からも研修を受ける機会が設けられている。

B 「適切な支援の提供」について

それぞれのお子さんに合わせた課題設定をして、それに沿ってプログラム等を行っている。日々、グループ記録で動線を把握し、記録をもとに振り返りを行っている。

C 「関係機関との連携」について

保育所や幼稚園を訪問し情報共有している。

D 「保護者への説明責任等」について

保護者との日々の会話や連絡ノートの活用、必要に応じて面談を行い、意思疎通や情報伝達を図っている。

E 「非常時等の対応」について

地震や不審者など様々な状況を想定した訓練を行っているが、もっと具体的な訓練も必要。

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

できているとの評価は94%。
こどもに合ったプログラムを提供してくれている。
しまじろうとあんばんまんの部屋に少し飽きているように感じる。

B 「保護者への説明等」について

できているとの評価は96%。
共通理解はしているが運動面で物足りなさを感じるところはある。
困ったときにすぐ相談できるので非常に助かっている。
HPはあまり見たことがない。

C 「非常時の対応」について

できているとの評価は94%。
定期的に訓練を実施している。

D 「満足度」について

満足との評価は89%。
大変満足している。
いつも感謝しております。

事業所内での分析

- 昨年度までの感染症対策のノウハウを活かしながら、状況に応じた運営体制を構築し、集団療育を行ってきた。
- プログラムに関してもそれぞれのお子さんの状況に合うように工夫を凝らして実施しているが、保護者によってはマンネリ化や物足りなさを感じている方もいる。
- 新たなフェーズに入った感染症対策下において、保護者同士の連携のあり方や実施方法について、さらなる検討が必要である。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 障害がある子どもが自分を表出し、自分らしく生きられるよう支援している。
子どもが主体的に活動できるような「できる」「わかる」環境を設定し、子どもが自分の思いを表出して、自分で「できる」達成感を感じ、人と関わったり助けを求めたりする関係ができるように支援している。
- 保護者が安心して地域で生活していけるように支援している。
個人面談を実施するとともに、親子通園時には療育での子どもの様子を見てもらって説明し、保護者が家庭での支援に活かせるようにしている。連絡帳や日々の会話で保護者の思いを聞き取り、就学などの個別の相談にのり、就学後の相談にも応じている。様々なテーマで保護者教室や療育講座を実施して必要な情報を提供し、保護者が見通しをもってその後のライフステージを乗り越えて行けるよう支援している。
- 他職種間でチームアプローチし、それぞれの専門性を療育に生かしている。
センターでは、各課に専門職を配置し、多職種で連携して子どもの支援にあたっている。

事業所の改善点

- 多様化するニーズへの対応や保護者の不安解消、個々の利用児にあった支援を実施するために職員のスキルアップと体制整備を行い、新しい療育体制の構築に引き続き取り組んでいく。
- プログラムがマンネリ化しないような工夫や改善と、引き続き継続的なプログラムが必要なお子さんへの対応など、一人一人の支援内容を更に深め検討していく。
- 新たなフェーズに入った感染症対策下での保護者同士の交流については、親の会とも連携し、ニーズの把握や企画、ツールの活用等、引き続き工夫しながら取り組んでいく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度は、昨年度からの新型コロナ対応を活かしつつ、より工夫した行事の実施やプログラム対応を行ってきました。また、保護者の皆さまにも、様々な場面でご理解ご協力いただき感謝いたします。今回、このアンケートを通じて、多くの課題やご意見を確認することができました。

今後も「子どもの療育」「保護者支援」の二本柱を大切に、利用者本位のサービス提供に向けて、職員一同精一杯取り組んでいきます。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

事業所名 横浜市西部地域療育センター 児童発達支援
担当者 管理課長 河田 治朗

職員による自己評価

- A 「業務改善」について
立案した目標に沿った振り返りが毎日行
えている。
- B 「適切な支援の提供」について
ミーティング、各クラスのカンファレンス
がしっかりと行われ、各クラスの状況に合
わせた活動プログラムを設定している。
- C 「関係機関との連携」について
保護者からの聞き取りを行うなど、必要に
応じて保育所等と情報共有を行っている。
- D 「保護者への説明責任等」について
連絡帳や定期的な面談を通して、子ども
の状況、課題について共有し、保護者から
の相談に応じている。
- E 「非常時等の対応」について
マニュアルは整備されているが、保護者へ
の周知が不十分。

保護者による評価

- A 「適切な支援の提供」について
できているとの評価は98%。
毎回、色々なプログラムを準備してくれて
いる。
トイレや提示のやり方等、子どもの理解や
なれに応じて支援を減らしてもとも思う。
- B 「保護者への説明等」について
できているとの評価は93%。
相談できるところがあるのは心強い。
保護者同士の集まりや話せる場がもっとあ
ればいいなと思います。
- C 「非常時の対応」について
できているとの評価は91%。
- D 「満足度」について
満足との評価は99%。
「子どもは通所を楽しみにしているか」に
全員が「はい」と回答。
この数年通うことにより、子どもの大きな
成長がみられました。この場所がなかった
らどうなっていたか。感謝しかありませ
ん！

事業所内での分析

- お子さんへの適切な支援の提供と保護者への丁寧な説明が、「適切な支援の提供」についての高評価に
つながっている。
- 保護者同士の交流の場の提供についてはまだまだ十分ではなかった。
- 情報発信についてはより積極的な対応が必要となってくる。
- 「満足度」については、保護者から高い評価をいただいている。今後も質の高いプログラムを提供し
ていく。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- **一人ひとりのお子さんに適した支援を実施している**
診察・各種評価の結果を基に、療育プランを作成し、保護者の意向も踏まえ、一人ひとりのお子さんの支援計画を作成している。併せて、作成した計画に基づいて他部門と連携し、お子さんに適した支援を実施している。
- **保護者支援の充実に努めている**
定期的な面談等を通して、お子さんに対する理解を深めていただき、より良い療育効果が発揮できるよう努めている。
- **他職種間との情報共有を行い、より良い支援に努めている**
他職種と定期的に情報共有を行うことにより、多方面からの支援体制が確立できている。

事業所の改善点

- 多様化する保護者ニーズや複雑化する家庭環境を考慮しつつ、家庭や地域生活がより安定するよう支援していく必要がある。
- 新たなフェーズに入った感染症対策下において、保護者同士の連携のあり方や実施方法について、さらなる検討が必要である。
- 保護者への情報発信や連絡体制の拡充については、より工夫した取り組みを検討していく必要がある。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今年度は、昨年度からの新型コロナ対応を活かしつつ、より工夫した行事の実施やプログラム対応を行ってきました。また、保護者の皆さまにも、様々な場面でご理解ご協力いただき感謝いたします。今回、このアンケートを通じて、多くの課題やご意見を確認することができました。

今後も「子どもの療育」「保護者支援」の二本柱を大切にし、利用者本位のサービス提供に向けて、職員一同精一杯取り組んでいきます。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。